



平成21年産温州みかんの生長記録（芽吹き～開花）

本年は1月～3月中旬まで気温が高く、降水量が平年よりやや多く順調な降雨があったため樹勢回復が早く、柑橘類総体に落葉が少ない状況です。気温が高かったため発芽も平年より7～8日早く、それに伴い開花も平年より早く、平均すると5月の連休前に満開を迎えました。本年産は芽も多いですが花も多く、表年の様相を呈しています。平成19年産に比べ着花数は少ないものの、昨年と比較すると10%～15%生産量が多いと見込まれます。但し、今後の天候によって状況は大きく変わっていきますし、全共選、全生産者一丸となって生産調整・高品質果実生産を主旨とした芽花管理を行い、定期防除などを行っているところです。

今後初夏にかけて、摘果作業とフィガロン散布による生産調整と品質管理を、また、タイバックマルチの被覆や樹冠上部摘果などで高糖系果実に仕上げるための生産指導や農家支援を強化していく方針です。各共選でも独自に生産調整や高品質高糖系果実に仕上げるための栽培管理や取り組みに対して、様々なかたちで助成していくシステムを組み始めています。また、中晩柑は伊予柑にベタ花が多く見られますが、デコポンは有葉花主体で着蕾しており発芽量も多く、芽花バランス良好。中晩柑も総体に発芽も開花も早く、発芽量が多いので安定生産と高品質果実が生産できる環境です。秋には高品質な果実を提供できるものと確信しております。

芽吹き（3月）



着蕾（4月）



開花（5月）



摘蕾（てきらい）作業を積極的に実施中!!

4月～5月にかけて、摘蕾作業（つぼみをもぎ取る作業）を実施中です。実になってからの摘果作業ではなかなか大変になってくるため、生産量の調整や高品質果実生産のため樹冠上部（上から1/3の部分）の蕾を手作業でもぎ取ります。この作業をすることで、

生産量の安定化や浮皮の防止・中玉生産（MS生産）が可能になります。もちろん、今後の摘果や防除なども必要不可欠の作業となりますが、まずは始めの一歩から。高品質果実生産に向けた農作業は既に始まっています。



摘蕾作業前のみかんの樹



摘蕾作業中（樹冠上部を全て摘蕾します）



摘蕾作業後のみかんの樹

平成21年産 西宇和柑橘(落葉)生産予想数量

分類	品種	生産予想数量(ト)	前年比	前々年比
極早生	日南・楠本	4,650	95%	115%
温州	宮川早生	28,500	115%	106%
	南柑20号	11,500	116%	107%
	石地・川田	300	129%	128%
	普通	3,380	106%	98%
	みかん小計	48,330	113%	106%
	みかん加工	6,630	117%	130%
	みかん合計	54,960	113%	108%
落葉果樹	富士柿	900	98%	92%
	キウイフルーツ	500	86%	101%
	枇杷	13	118%	76%
	落葉果樹合計	1,413	94%	95%

分類	品種	生産予想数量(ト)	前年比	前々年比
中晩柑	宮内伊予柑	7,300	108%	82%
	ポンカン	1,000	101%	134%
	甘夏・サンフル	1,850	100%	102%
	清見	5,800	103%	110%
	ニューサマー	450	138%	94%
	デコポン(施設・露地)	3,685	104%	137%
	せとか(施設・露地)	650	108%	157%
	その他	650	92%	82%
	中晩柑小計	21,385	105%	101%
	中晩柑加工	2,100	105%	67%
	中晩柑小計	23,485	105%	97%
	西宇和合計	79,858	110%	104%

上記は、現在の成り行き生産量です。（前年比、前々年比は最終の受入実績を基準に対比）
現在の予想数量は前年比、前々年比をともに上回っておりますが、ともに生産調整をした結果の受入に対する対比ですので昨年よりは多いものの、平成19年より着花数が少なく発芽も多いことから今後の生産調整や高品質果実生産に向けた取り組みはより易しいものとなっております。近年まで極端な隔年結果をしておりましたが、生産面での努力によりかなり安定してきております。